

診療局：形成外科

－スタッフ－

役 職	スタッフ名
科 長	服部 亮
医 員	前田 大介

－概要－

【人員構成と施設資格】

当科は大阪大学医学部形成外科学教室の関連病院として、2名のスタッフが常勤している(服部 亮: 科長・日本形成外科学会専門医、前田大介: 常勤医員)。また、当院は日本形成外科学会認定施設に指定されている。

(2014年12月31日現在)

【主な診療内容と特色】

形成外科の診療対象は非常に多岐にわたるが、当科では主に以下の診療を行っている。

○皮膚良性腫瘍、母斑、血管腫、皮膚悪性腫瘍の外科的治療

小児の皮膚腫瘍手術は、日帰り全身麻酔手術で行っている。

○顔面骨骨折の観血的整復手術

基本的に骨折部位の固定には吸収性プレートを用いるため、後日プレート抜去手術は必要がない。

○眼瞼下垂・睫毛内反症の修正手術

先天性眼瞼下垂、加齢などに伴う腱膜性眼瞼下垂の治療が可能である。

○表在性皮膚病変に対するレーザー治療

表在性血管腫等に対するVbeamレーザー治療、太田母斑・異所性蒙古斑・外傷性色素沈着に対するアレキサンダライトレーザー治療、皮膚表在性病変に対する炭酸ガスレーザー治療が可能である。

○乳癌術後の乳房再建

当科では乳腺外科と連携して、乳房再建術を行っている。保険適応となったシリコンインプラントによる乳房再建以外にも、自家組織(広背筋皮弁、腹直筋皮弁、DIEP flap等)を用いた一期的および二期的再建を行っている。乳腺全摘術を行う患者さんでは、通常乳癌切除と同時にティッシュエキスパンダー(皮膚拡張器)を挿入し、不足した皮膚を拡張した後に二期的再建を行っている。

○顔面神経麻痺の外科的治療

眉毛・眼瞼・口角下垂の矯正や、神経筋移植による機

能回復手術が可能である。

○熱傷の治療

○外傷後や手術後の瘢痕、ケロイドの治療

○陥入爪・巻き爪の治療

形状記憶ワイヤーを用いた非観血的矯正治療や、フエノール法等による観血的治療を行っている。

○癌切除後再建、外傷性・難治性皮膚欠損の再建手術

頭頸部癌切除後のマイクロサージェリーによる再建手術や、その他各種癌切除後欠損・外傷後欠損の再建手術を行っている。

○その他の院内活動

全入院患者の褥瘡対策を担い、褥瘡対策チームの中心として看護師・薬剤師・栄養管理士とともに週1回(火曜午前)の褥瘡回診を行っている。

－実績－

【2014年手術統計】

(2014年1月1日～12月31日)

熱傷	8
顔面軟部組織損傷	28
顔面骨骨折	32
四肢その他の外傷	27
外傷後の組織欠損(2次再建)	0
先天異常	17
良性腫瘍	405
悪性腫瘍	94
腫瘍切除後の再建	31
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	30
褥瘡	1
その他の潰瘍	16
炎症・変性疾患	83
その他	5
レーザー治療	277
合 計	1,054